

地域計画

策定年月日	令和7年3月28日
更新年月日	()
目標年度	令和14年度
市町村名 (市町村コード)	甲賀市 252093
地域名 (地域内農業集落名)	甲南町竜法師 (竜法師)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	53.8 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	53.8 ha
② 田の面積	53.7 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	0.1 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	4.8 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	49.0 ha
(参考)区域内における75才以上の農業者の農地面積の合計	2.3 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	1.3 ha
(備考)	

(2) 地域農業の現状及び課題

かつて90戸あまりいた集落内の農家数が、相次ぐ離農で現在は半数以下の40戸にまで減少しており、集落外の法人経営体の力も借りて何とか農地を維持しているのが現状である。集落内には認定農家が1戸しかおらず、17戸の農家からなる機械利用組合「営農部」や、4戸の農家からなる1農場方式を志向する「忍にんファーム」が存在するが、いずれも法人化されていない。一部組織で管理されているほ場はあるものの、構成員個人が管理している水田もあり、今後の改善が望まれる。
ほ場整備事業実施から50年近く経過しており、水利施設を含め生産基盤が老朽化している。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

水稻を主要作物とし、露地野菜等を組み合わせ、所得向上を図る栽培体系を確立する。集約化が進むと耕作者が減り、従来から行ってきた耕作者の総出による、ため池、水路・農道等の維持管理が困難になるので、対策として、草刈隊や竜法師農地・水・環境を守る会等の事業と連携し、地権者や非農家の協力を求めている。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
アンケート調査において、これから5年の間に離農、縮小で4.8haの農地の担い手を確定する必要があることがわかった。現状では、担い手は集落内の認定農家1戸と集落外の法人経営体、それと前述の2組織などに約24haが集約されているが、現在集落内農家が耕作する農地約30haについては、アンケート調査の結果に基づき、今後10年以内に新たに設立する集落1農場型の組織と、営農部を発展させた組織をと竜法師の中心経営体と位置づけ、さらに集積が進むよう努力する必要がある。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	44.5	%	将来の目標とする集積率
			55.8 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
集落営農をめざす2組織を中心経営体と位置づけ、離農・縮小希望者の農地4.8haを集積する(休耕地も含む)。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
離農・縮小希望者の農地を中心経営体に集約する(休耕田も含む)。
(2)農地中間管理機構の活用方法
これからの農地流動については、可能な限り農地中間管理機構との契約とする。
(3)基盤整備事業への取組
農地中間管理機構の集約協力金等を活用して農地条件整備事業に取り組む
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
集落営農をめざす2組織を中心経営体と位置づけ、他集落を含む担い手農家と連携して竜法師の農地維持を図っていく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の取組
乾燥調製施設、育苗センター等を利用する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨その他	

【選択した上記の取組内容】
1.獣害が拡大中であるので、獣害柵の計画的な設置を検討する。2.担い手農家1戸が有機栽培を志向されているほか、集落内の農家で守っている水田約30haのうち22.6ha(75.3%)で環境こだわり米の生産を行っている。3.草刈隊や農地・水・環境を守る会等の活動を通じて、地権者や非農家を含めて地域環境の保全を図る。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 14 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農		水稻、大豆、野菜	2.7 ha	ha	水稻、大豆、野菜	3.2 ha	ha	計画図の通り	拡大
認農法		水稻	6.0 ha	ha	水稻	7.0 ha	ha	計画図の通り	拡大
認農法		水稻	3.0 ha	ha	水稻	3.3 ha	ha	計画図の通り	拡大
認農法		水稻	5.0 ha	ha	水稻	5.0 ha	ha	計画図の通り	現状維持
認農法		水稻	ha	0.3 ha	水稻	ha	0.3 ha	計画図の通り	現状維持
認農法		水稻	2.0 ha	ha	水稻	0.0 ha	ha	計画図の通り	撤退
利用者		野菜	0.5 ha	ha	野菜	1.0 ha	ha	計画図の通り	拡大
利用者組織		水稻	3.2 ha	ha	水稻	4.0 ha	ha	計画図の通り	組織拡大
利用者組織		水稻	1.6 ha	ha	水稻	7.0 ha	ha	計画図の通り	組織拡大
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	9経営体		23.95 ha	0.3 ha		30.5 ha	0.3 ha		

5 農業支援サービス事業体一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)